

大島正克先生のご退職に寄せて

アジア・国際経営戦略研究科 委員長 伊藤 善夫

大島正克先生は、1981年に専任助手としてご就任以来、一貫して本学経営学部にご勤務され、2019年3月末日を以て、大学教員としての区切りをつけられます。38年の長きに亘り、本学に大きな貢献をされてこられました。大島先生のご業績については、多くの諸先輩教員の方々が語られることと推察いたしますので、ここでは小職がご一緒させていただいております。アジア・国際経営戦略研究科でのことを中心に触れたいと思います。

小職が本学に奉職することになる前年の2005年、大島先生は、従来から設置されていまして経営学研究科を改組した、アジア・国際経営戦略研究科の設立準備委員会において、設立準備委員長であった池島政広教授（当時学長、現名誉教授）と共に、学務委員として、本学におけるMBA教育の立ち上げを牽引されました。設立時の9名の専任教員には、経営学部所属の6名の教員の他、実務家から2名が登用されました。小職も、この研究科の設立のために前任校から移籍することとなり、末席に加えていただきました。大島先生はこうした異なる価値観を持つ人材を取りまとめられるとともに、まったく新たなカリキュラムを運営する諸制度の設計をされ、募集定員30名の学生確保を成し遂げられました。その後も比較的順調に学生を確保し続けられる礎は、この時にできたものと、大変感謝しております。そして、大学教員ではあったものの、重細重大学での勝手の分からない小職にも大島先生は大変気を遣っていただき、ご指導を賜ったこと、今でも鮮明に記憶しております。

同研究科が設置された2006年度からは、経営学部長にご就任され、学部の教育改革にご尽力されました。2009年度には、それまで経営学部にご設置されていた「ホスピタリティ専攻」を「ホスピタリティマネジメント学科」に改組し、本学の特色ある経営教育を具体化されました。経営学部長にご就任されたこともあり、研究科学務委員については2006年度から小職が引き継ぐことになりましたが、経営学部とアジア・国際経営戦略研究科の二つの組織をつなぐ重要な役割は、引続き大島先生が担われました。学務委員を引き継いだ小職といたしましては大変心強い存在で、至らぬところを幾度となく助けてもらいました。

大島先生とはその後も研究科委員会でご同席させていただき、開設2年目の秋には修士課程修了予定の学生を対象とする中国・上海での研修にもご一緒させていただきました。学生諸君と工場を見学する際には、研修を受ける学生よりも詳細に、見学先の企業について事前に調べられ、受入企業の方の如く、学生に関連情報を説明されていました。学生を常に思いやり、きめ細かなご指導を、上海においてもされていた姿が思い起こされます。

大島先生は博士課程においても、卓越したご指導をされ、アジア・国際経営戦略研究科として

の最初の博士号は、大島先生のご指導による学生に授与されました。経営学研究科の頃からの学生を含めて育成された研究者は多く、本学の教育成果に大きな貢献を為され、後に続く教員の目標ともなりました。

2015年10月からは副学長に、2018年10月からは学長にご就任され、今や、本学全体のマネジメントを司っておられます。学長に就任されるやいなや、2025年に向けた中期行動計画を提示され、「教育の亜細亜」を確固たるものにすべく改革を推し進めておられます。改革の骨子は今後、亜細亜大学から広く社会に発信されるものと推測いたしますが、学部教育を中心にした本学の個性を高みに導くものとなるに違いないと確信しております。大学院教育についても、この骨子に基づき、将来を見据えた改革案を創造されるものと期待しております。

2019年春には、大学での教員としての職務については、区切りをつけられます。教育者としての大島先生を、授業の場で拝見することはできなくなりますが、学長として学生に接することは多くあるものと思います。本学野球部の部長を長らく務められ、学生スポーツの振興に貢献されてこられた大島先生は、学長というお立場から、今後も教育者として学生の成長を大いに鼓舞されることでしょう。小職も一人の亜細亜大学の教員として大島先生を目標に、一層の努力をして参りたいと、ご退職にあたって思いを新たにすところでもあります。

大島先生、長きに亘る本学教員としてのご貢献に感謝申し上げます。そして今後は、教育者として、大学の指導者として、私共をお導きください。大島先生のこれからのご活躍とご健勝を、心より祈念いたします。

2018年12月吉日